

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



July						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

July 2024 vol.123

りゅうたんじ 龍潭寺

所在地：名古屋市中区野田

交通：地下鉄東山線「高畑」駅西約1.3km

龍潭寺は、唐の龍潭禪師への尊敬の意を込めてできたお寺で、日本には6か寺あり、曹洞宗の2か寺（「りゅうたんじ」と読む）は名古屋市中川区と岩倉市に、臨済宗妙心寺派の4か寺（「りょうたんじ」と読む）は浜松市、彦根市、亀岡市、八幡浜市にあります。中川区野田の龍潭寺は、康正元（1455）年の創建で、6か寺のうち最初に龍潭寺を名乗りました。

昭和34（1959）年9月、この地方を伊勢湾台風が襲いました。中川区では、被害の大きかった南区や港区と比べると海岸から遠く避難に余裕があったため、死者は20名と少ないものの、浸水家屋は17,000戸に及びました。当時、野田の龍潭寺（以下、単に龍潭寺と表記）では、住職の別府釜芳師（現在の別府良孝住職の実父）が入院中であり、11歳の従弟（良孝君）、34歳の御庫裏（良孝君の母）、25歳の住込僧侶の3人のみで、大黒柱がない中での台風襲来となりました。幸い、敷地が周辺の道路より1mほど高く盛られていたことから、山門の入口で水は止まり、敷地内には入りませんでした。また、本堂や庫裏も無事でしたが、茶室が全壊したほか、強風により境内の樹木が100本倒れたとされ、各地の御檀家が20名亡くなりました。

被災後、龍潭寺では、御檀家の多かった南陽町向けに1か月ほど毎日おにぎりを届けたほか、南陽町の尼寺で育てられていた女の子を1か月間受け入れるなどしました。



野田の龍潭寺

台風の後、病床で慰霊について考えていた住職は、境内で倒れた楠の根元を使って、彫刻師に風神像を彫らせ（龍潭寺は彫刻師の御遺族とのコンタクトを希望）、仏の命を与えました。さらには、風神様の御神宝（携行仏具）として、直径2m、長さ6mにも及ぶ大風袋を制作しました。大風袋は、ビニールシートそのものは井上護謄工業株式会社（現イノアック）から購入し、加工は中川区南陽町にあった井上ビニール工業所に依頼しました。出来上がった大風袋には、慰霊のために、住職の手で台風で犠牲になった約2,500名の方々の名前と居住自治体名、年齢が書き上げられ、犠牲檀徒20名については、戒名も添えられました。また、合わせて十二支の動物も描かれました。

制作にあたっては、亡くなられた方々への慰霊の気持ちはもちろんのこと、次の世では幸せになってほしいという願いが込められ、毎年の命日には法要が行われていました。最近、龍潭寺の内仏堂から、昭和35年から昭和45年の9月某日に行った「追悼大法要」の参列者が達筆で記録された「除災風神眞天祈禱帳」が見つかりました。13回忌以降は、大法要は行わず、9月26日の朝課の折に、殉難檀徒20名のみを回向していたようです。（裏面に続く）



（左）倒れた楠で彫った風神像（中）大風袋のモニュメント（右）除災風神眞天祈禱帳



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



住職が使用した原名簿は、台風襲来から約3か月後の昭和34年12月に作成された第1次殉難者名簿で、住職が愛知県庁を訪れ、購入したか借り受けたと考えられています。なお、伊勢湾台風の死者数は5,000名余りで、住職はその半数をマジックインクでビニールシートに書いたことになりませんが、残りの約2,300名の名前も書いた名簿があると

考えられ、完全な名簿が見つかることが期待されています。

龍潭寺の風神様と大風袋は、慰霊の気持ちを込めて多くの犠牲者の名前が記された追悼モニュメントであり、文化遺産、宗教遺産などとして評価が高く、あらためて防災遺産としての活用が期待されています。(今月号は、龍潭寺現住職・別府良孝氏の協力を得て作成しました。)

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●南陽神社 (vol.90,2021.10)

所在地：名古屋市港区春田野

交通：近鉄名古屋線「戸田」駅南東約3km

昭和34(1959)年の伊勢湾台風で、特に被害の大きかった南陽町では、新川船頭場付近の堤防決壊を皮切りに、小川・藤高前・茶屋後新田地内の二重堤が決壊、その他、日光川・新川・海岸の堤防等、26カ所が被害を受け、多数の人命が失われました。

南陽神社には、犠牲者を慰霊するために、伊勢湾台風殉難者慰霊之碑が建立されています。碑文には「堤防を乗り越えた海が逆落としとなって幾百の人と家を呑む。瞬時にして全町が泥海と化した」など、台風襲来時の様子が記されており、町内で犠牲となった199名のご冥福をお祈りする旨が刻まれています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.39 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★中川金魚まつり

中川金魚まつりは、尾頭橋・尾頭橋西部・おとうばし発展会と隣接する三つの商店街が主催するまつりで、中川区の尾頭橋公園一帯で、毎年7月下旬に開催されます。(2024年は7月27日(土)、28日(日))

昭和28(1953)年、尾頭橋公園一帯で地元の有志や商店主らが協力して祭りを立ち上げたのが始まりで、弥富の金魚業者と提携して、当時は珍しかったランチュウを展示したことで金魚のイメージが定着し、金魚みこしが誕生、現在のまつりのスタイルに発展しました。10年程前までは、本物の金魚を配っていました。

まつりの見どころは横3m、縦1.5mの金魚みこしで、巨大金魚みこしが練り歩く姿は、ほかではなかなか見られない珍しい光景です。



中川金魚まつり HP より

～鉄道で巡る～

地下鉄東山線高畑駅は、昭和57(1982)年9月、東山線高畑



まるはち交通センターHPより

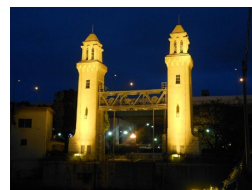
～中村公園間の開通に合わせて開業しました。高畑駅を起点に、中川区西部や港区方面へ発着するバス路線が数多くあり、バスターミナルはありませんが、駅出口がある高畑交差点付近には、各方面へ向かうバス停があります。

東山線の起点駅で、ラッシュ時には約2分間隔で列車が折り返し運転します。

●ブレイクタイム●

♪中川運河松重閘門

中川運河松重閘門は、水位差のある堀川と中川運河間の通航を可能とするため、昭和7(1932)年に供用開始されました。水門が上下に動くストーニー式の構造で、水門で仕切られた閘室内の水位を上下させて、船を通航させていました。貨物輸送がトラックへと変化したことなどから、昭和51(1976)年に閉鎖されましたが、市民からの要望を受け閘門は保存されており、昭和61(1986)年に名古屋市指定有形文化財に、平成5(1993)年には、名古屋市都市景観重要工作物に指定されています。



名古屋コンシェルジュ HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年7月)